

令和 6 年度

(令和 6 年 1 月 1 日から令和 6 年 12 月 31 日まで)

事業報告

公益財団法人 新日本先進医療研究財団

第 1 事業の状況

今年度の事業は、がん及び生活習慣病に関する先進医療研究分野に関する研究者及び研究機関に対して助成金を贈呈する為、令和 6 年度第 10 回助成金応募を 7 月より行い、同年 12 月に 29 名の受賞者を決定した。なお、今年度は「がん」に関する研究、助成金額を 1 件あたり 100 万円～200 万円、総額 3,000 万円 20 名程度の予定だったが、本年、配当金が予定より増額する為、予定助成金額を 800 万円増額し、29 名、総額 3,800 万円の助成を決定した。

また、本年度より当財団の研究助成事業により助成を受けた研究について、学術的に評価された研究実績を上げた研究者及び研究機関を表彰し褒賞金を贈呈する褒賞事業を開始した。

第 2 事業の成果

1. 助成金の交付

がん及び生活習慣病に関する先進医療分野の研究者及び研究機関に対し、研究助成金を交付

(1) 助成対象

がん及び生活習慣病に関する先進的な研究の、国内において従事する研究者または研究機関が行う研究で、その成果ががん及び生活習慣病研究の進歩、発展に著しく貢献すると考えられるもの。

なお、本年令和 6 年度は「がん」に関する研究に限定した。

(2) 助成金額

1 件あたり 100～200 万円を上限として支給

(3) 令和 5 年度助成金受賞者

公益財団法人 新日本先進医療研究財団 令和 6 年度（第 10 回）研究助成金受賞者

【がん関連研究】

氏名	所属機関	研究題目
井上 大地	大阪大学大学院生命機能研究科・医学系研究科 がん病理学教室	血液腫瘍における SETBP1 変異の病態解析と治療応用
指宿 立	九州大学大学院医学研究院 呼吸器内科学分野	腫瘍間質相互作用による EGFR 遺伝子変異陽性肺癌の耐性誘導機構の解明と新規治療開発
岩本 千佳	九州大学大学院 医学研究院 臨床・腫瘍外科	膵癌における免疫抑制性微小環境に対する CHIP の潜在的役割の解明
内田 泰介	宮崎大学医学部附属病院・内分泌・代謝・糖尿病内科	ATL における 理想的な薬物併用療法の確立と、機能的ゲノミクスによる 新規治療
川元 真	福岡大学筑紫病院・外科	Glycoprotein2 の機能不全が膵癌発症に及ぼす影響の解明
菊地 一史	九州大学病院・放射線科	多核種イメージングによる脳腫瘍（グリオーマ）の悪性度判定と治療効果判定
北川 陽介	東京大学医学部 脳神経外科	転移性脳腫瘍の術中診断を目指した新規局所投与型蛍光プローブの開発
佐々木 恭	川崎医科大学 消化器内科学	血管内光照射カテーテルデバイスと光応答型薬剤送達システムの技術シーズ融合による革新的がん治療開発
椎木 健裕	山口大学医学部附属病院 放射線治療部	即時適応動体追跡放射線治療を実現する革新的イメージング技術の開発

高橋 孝輔	長崎大学病院 消化器内科	膵癌オルガノイドを用いた迅速診断可能な新規薬剤感受性試験の創出
田中 俊光	久留米大学・内科学講座消化器内科部門	進行胃癌における肥満パラドックスのレプチンを介した分子機構の解明
谷口 寛和	長崎大学病院・がん診療センター呼吸器内科	小細胞肺がんの薬物治療抵抗性の解析と新規治療戦略の確立
戸島 剛男	九州大学大学院 消化器・総合外科	シングルセル解析及び空間オミックス解析を用いた、肝移植後の免疫抑制状態における肝癌再発
野村 昌志	東京大学医学部附属病院 脳神経外科	術中高速 DNA メチル化シーケンスを応用した神経膠腫悪性度診断
長谷川 佳那	九州大学病院・顎口腔外科	口腔癌をモデルとした新規 YAP シグナル標的因子による癌進展機序の解明
波多江 龍亮	九州大学大学院医学研究院 脳神経外科学	膠芽腫オルガノイドを活用することで低酸素微小環境下での CAR-T 療法の効果を高める試み
平林 茂樹	九州大学大学院医学研究院プレビジョン医療学分野	遺伝性血液腫瘍の発生機序解明
平山 真弓	熊本大学国際先端医学研究機構	造血細胞 Tie2 シグナリングを標的とする骨髄異形成症候群の新規治療法の開発
廣瀬 皓介	九州大学病院 別府病院 外科	難治性膵癌の新たな分子サブタイプに基づく 異常スプライスバリエントの同定と意義の解明
藤倉 航平	東京医科大学医学部分子病理学分野	Circulating tumor cells の抗せん断応力能の構成的理解
藤吉 健司	久留米大学医学部外科学講座(先端癌治療研究センター分子標的部門)	若年性大腸癌の発症メカニズム解明の試み -腸内細菌叢とエストロゲンに着目して-

南 満理子	九州大学病院 臨床教育研修センター	急性前骨髄球性白血病の白血病幹細胞の同定ならびにゲノム切断点相違による白血病発症機構の解明
宮脇 恒太	九州大学病院遺伝子細胞療法部	びまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫の免疫微小環境による予後規定メカニズムの解明と予後モデルの臨床実装を目指した研究
藪下 知宏	熊本大学 国際先端医学研究機構	慢性骨髄性白血病幹細胞を標的とした新規併用療法の開発
山内 拓司	九州大学病院 血液腫瘍心血管内科	BCL2 阻害剤を用いた急性骨髄性白血病に対する新規治療法開発
山名 啓介	熊本大学病院歯科口腔外科	がんの治療成績向上のための、細胞外小胞による前転移ニッチ形成を標的とした転移獲得機構の解明
山本 隆広	熊本大学病院・脳神経外科	悪性脳腫瘍における RNA-m5C 修飾機構の解明と治療応用の検討
山本 雄大	佐賀大学医学部内科学講座 血液・呼吸器・腫瘍内科	新規経口 DNA 脱メチル化薬 OR2100 による発がん予防効果
若橋 香奈子	熊本大学 国際先端医学研究機構	骨髄線維症の進展に果たす好中球の役割